河原によくある木－ヤナギの仲間

ヤナギってどんな木？

ヤナギは河原で一番ありふれた木です。でもかえって、あまり知られていないようです。ヤナギにもいくつか種類があります。よく見れば姿形も違い、生き方も異なります。また、オスの木とメスの木にも分かれているのです。少し目を向けてみましょう。

見た目で分けて３つのヤナギ

ヤナギには、①葉の細い「普通の」ヤナギ、②葉が広いヤナギ、③まっすぐ幹が伸びるヤナギ、があります。※

オノエヤナギ。細い葉のヤナギ

エゾノバッコヤナギ。
葉が広いヤナギ

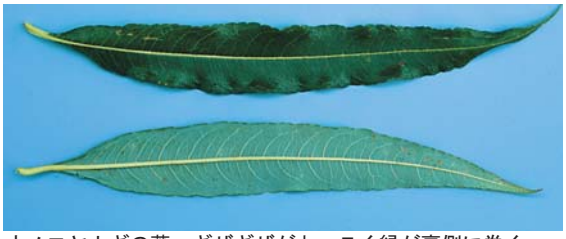
ケショウヤナギ(左)とドロヤナギ(右)。
幹がまっすぐ伸びるヤナギ

※：分類上はもう少し細かく厳密に分かれます

「普通のヤナギ」のいろいろ

細い葉をもつ普通のヤナギにも、いくつもの種類があり、葉の形が異なります。

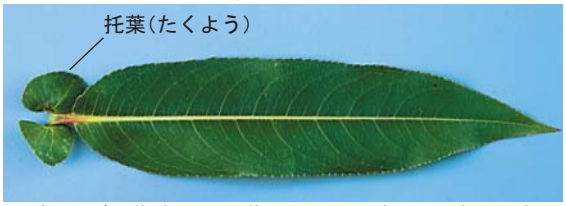
一番多いオノエヤナギの葉はギザギザが緩やかな波のよう、エゾノキヌヤナギの葉の裏はきらきら光る。また、エゾヤナギの葉の根元には小さな葉（托葉）が遅くまで残ります。



オノエヤナギの葉。ギザギザが丸っこく縁が裏側に巻く

エゾノキヌヤナギの葉。裏に絹毛がビッシリで輝く

エゾノカワヤナギの葉。ギザギザが細かく、細長い



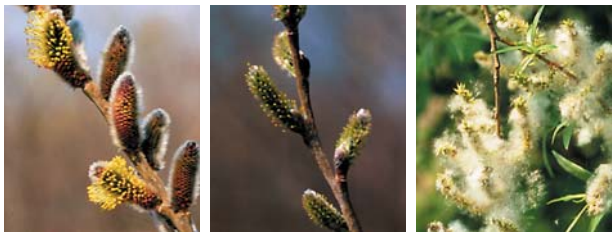
エゾヤナギの葉。根元の托葉(たくよう)がかなり後まで残る

タチヤナギの葉。ギザギザが細かく、主脈が盛り上がる

花は地味？ とんでもない

オノエヤナギの雄花（左）と雌花（右）

ヤナギにはオスの木とメスの木があります。オスの木には雄花（雄しべ、花粉がある）が、メスの木には雌花（雌しべがありタネをつける）が咲きます。小さくて目立ちませんが、開いたヤナギの花はとてもきれいです。



エゾノキヌヤナギの雄花（左）、雌花（中）と実が開いてでてきたタネと綿毛（右）。

クワガタの集まる木

コクワガタ。ヤナギの木をけとばすと、クワガタが落ちてくることがある

ヤナギは北海道の木の中で、最も早く花を咲かせます。

蜜を吸う虫にとって、早春のヤナギの花は大変貴重です。また、夏にはクワガタが樹液を吸いにやってきます。

さらに、コムラサキやヒオドシチョウは、幼虫の時ヤナギを食べて育ちます（→ｐ７）。

川岸を守り、魚を育てる

細い葉のヤナギは、枝を切って土に埋めるだけで根付きます。また、湿った場所を好んで、早く育つので、川岸を守るために植えられることがあります。

また、春から秋にかけて葉を生やしては落とし続け、水の中の虫にずっと餌を与えます。川におおいかぶさってかげをつくります。こうして魚に対しても食べ物とすみかを与えているのです。

アイヌ語で、ヤナギは「スス」と言われ、神の儀式の道具に用いられたり、サケ漁のとき、サケの頭をたたく棒にも使われました。

秋早く、オノエヤナギの葉が黄ばみ、散りつくすころ、シシャモが群をなして川をさかのぼってきます。

こうしたことからか、葉の形と魚の形が似ているからか、アイヌ語ではシシャモのことを「ススハム（ヤナギ・葉）」「ススハムチェプ（柳葉・魚）」と呼ぶといいます。伝説にも、ヤナギの葉が魚になった、というものがいくつかあるといいます。

「シシャモ」という言葉もこの「ススハム」から来たと言われています。

参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 著　小野 他編集　北隆館　1989
「北海道　樹木図鑑」佐藤孝夫　亜璃西社　1990
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫　北海道大学図書刊行会　1992
「樹木大図鑑」高橋秀男監修　北隆館　1991
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修　植物文化研究会・雅麗 編集　柏書房　1996
「北海道　庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝　北海道新聞社　1978
「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎　（社）北海道治山協会　2001
「森林で遊ぼうシリーズ１　おもしろい木の話」北海道立林業試験場監修　北海道林業普及協会
「生育環境別 日本野性植物館」奥田重俊 編著　小学館
「日本のチョウ」上野明雄　小学館　1981
「北見の蝶」木村辰正　北見市教育委員会　1994
「アイヌ植物史」福岡イト子　草風館　1995
「天然林施業Q&A」石塚森吉ら　北方林業会編　1988